

令和7年度

こども園の自己評価表

社会福祉法人 敬愛会
にしがほりこども園

【評価対象期間】

令和7年4月1日から令和8年2月28日

【評価責任者】

大阪市西区新町4丁目11-14

にしがほりこども園

園長 山口 直美

こども園における自己評価の結果

A 達成できている
B おおむねできている
C 一部検討を要する
D 改善を要する

1. 教育・保育の計画の構成と実施に関する評価

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
経営組織	(1) 教育・保育目標の具現化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか。	○				教育・保育目標、方針を基に前年度の反省を生かしつつ、職員間で話し合いながら、こどもの興味関心に基づいた主体的な遊びを保証する保育に取り組んだ。抽象的な保育目標を具体的な行動目標に落とし込み、全職員で共通理解を深めながら地域の特色をより生かした保育を目指していく。
	(2) 目標は、各施設や地域の特色を生かしているか。	○				
	(3) 目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか。	○				
	(4) 目標は前年度の反省を生かし、全職員で共通理解を図っているか。	○				
教育・保育について	(1) 指導計画は、乳幼児の実態に即して作成しているか。	○				指導計画については、毎月子どもの状況・育ちを踏まえて個々に応じたねらい・配慮事項を作成し、未満児においては、家庭と連携し24時間を視野に入れた保育を行った。引き続き、こどもの安全と健康を保障しながら自発的な活動と多様な経験を通し、自立した生活を送るための基盤作りができるよう、職員の環境構成への実践力を育成していく。全職員が共通認識のもと素材や用具の活用がより適切にできるよう取り組んでいく。
	(2) 1日の流れ（デイリープログラム等）は現行でよいか。		○			
	(3) 環境の構成を意識した教育・保育や過程を常に工夫しているか。	○				
	(4) 素材・用具を適切に活用しているのか。		○			
	(5) 評価結果を基に、教育・保育の改善に努めているか。		○			
行事について	(1) 行事の種類や実施回数は適切か。	○				感染対策や年齢に応じた行事の持ち方を考え、工夫しながら行ってきた。PDCAサイクルをしっかりと意識した体制をとっている。行事については保育の彩となることを踏まえ、こどもと職員にとって負担とならないよう、保護者の思いも大切にしながらこどもが主体となって取り組めるよう取り組んでいく。
	(2) 行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか。	○				
	(3) 計画・実施・評価・改善(PDCAサイクル)の体制をとっているか。		○			
	(4) 保護者の願いや意見を取り入れているか。	○				
食育について	(1) 食育の計画を作成し、よりよい食習慣や心身の健康の基礎を培うよう努めているか。	○				年齢別に目標やねらいをたて、活動計画に基づいて保育活動に取り入れている。
	(2) 乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう食育について見直しや改善を図っているか。	○				

2. 教育・保育の計画の構成と実施を支える諸条件に関する評価

項目	内容	評価				意見・改善策	
		A	B	C	D		
経営・組織	分掌・体制	(1) 能率的、合理的な運営組織になっているか。	○				職務分掌の検討を重ね、副主任に主任の仕事を一部委譲したことで、体制調整等がクラスの状況に応じたものとなり、保育がスムーズになった。
		(2) 職員の配置は適材・適所か。	○				
		(3) 係や仕事の分担・割り当ては適切か。	○				
	運営	(1) 各種会議を適切かつ効率的に進めているか。	○				必要な会議は、計画的に日程を決め行うことができた。
		(2) 職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関わっているか。		○			
	年齢別・クラス経営	(1) 年齢別・クラス目標は、教育・保育目標や重点目標に基づいて設定しているか。	○				年齢別の教育・保育目標は、こどもの育ちや実態に即した内容になっているか評価・反省を重ねながら改善に努めている。保育の積み上げがこどものより良い育ちに繋がることから運動会後にはカラーガードやバルーンを異年齢で楽しむ等、次年度に繋ぐことを意識した活動を取り入れている。クラスを跨いで積み上げの活動が継続していけるよう取り組んでいる。引き続き、異年齢保育を積極的に取り組んでいけるようにする。
		(2) 年齢別・クラス目標は、乳幼児の実態に即して設定しているか。	○				
		(3) 同年齢および異年齢児間の効果的な活動の充実を図っているか。		○			
		(4) 評価、資料（諸記録）を集積しているか。	○				
	保健・安全指導	(1) 年齢別・クラス運営に生かされるような具体的保健対策を講じているか。	○				感染症蔓延防止のため、感染症サーベイランス等を活用し、早期把握に努めている。防災・交通安全年間計画を作成し、計画に沿って指導を行っている。また、津波高潮ステーションを見学し、地域の特性を踏まえた防災教育を行っている。消防署と連携した防災教室・救命講習の全職員受講や警察署との連携による不審者侵入を想定した防犯訓練・子ども向け防犯教室を実施し、防災・防犯教育を行っている。
		(2) 避難訓練・交通安全指導を適切に実施しているか。	○				
		(3) 健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか。	○				
		(4) 乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか。	○				
	取 扱 情 報 の 取 扱 い	(1) 乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っているか。	○				個人情報の取り扱いには十分に気をつけ、職員の意識定着のため、リマインドを定期的に行った。
		(2) 文書收受、発送、処理を適切に行っているか。	○				
	研究・研修	園内	(1) 研究主題は、保育目標の具現化につながるものである。	○			
(2) 園内研修の計画・運営は適切か。			○				
(3) 研究成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させているか。			○				
(4) 研究の実践による乳幼児理解が深まりをみせているか。			○				
園外		(1) 各種研究会、研修会、講習会への参加体制の充実を図っているか。	○				自己の課題に沿った研修会に積極的に参加している。研修会の伝達は、職員会議を通して全職員に共有できるよう努めている。職員の意向を反映した研修参加を行ってきたい。
		(2) 各種研究会、研修会、講習会での内容を園内に還元しているか。	○				

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
施設・設備	(1) 施設内外・設備の安全点検を計画的に行っているか。	○				安全点検は、毎月職員が園内外を点検項目に沿って行っている。 自動錠で鍵の閉め忘れの防止や玄関には防犯カメラを設置し、地域警察の協力を得て不審者訓練や不審者対応教室なども実施した。また、登降園時の不審者侵入対策、こどもの飛び出し防止対策を行った。玄関の掲示板を使って感染症情報等をわかりやすく掲示し、保護者に知らせる工夫をした。
	(2) 遊具・用具等を活用しやすいように整理・保管しているか。		○			
	(3) 不審者等の対する周知な配慮を行っているか。	○				
	(4) 掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか。	○				
出納経理	(1) 小口現金を適正かつ適切に処理しているか。	○				園長を担当者とするなど取り扱い者を限定し、施錠できる場所に厳重に管理している。また、支払いの都度、勘定科目を小口現金出納帳に適切に分類記入し、こまめな残高確認の実施により、不正防止と差異の早期発見に努め、適切適正に行っている。
施設間交流・連携	(1) 他施設等の児童・生徒と触れ合う中でこどもが楽しく過ごし充実感を味わう事が出来るような配慮や援助・支援を行っている	○				小学校接続会議を開催し、教職員同士の交流や意見交換を行い、就学に向け安心して就学につながるようにしている。連携小学校が研究テーマとしている幼児教育センター「がんばる先生」作成にあたって幼児教育施設として架け橋期の連携の重要性について園長講和を寄せている。就学前児童が小学校作品展の見学や交流会に積極的に参加し、小学生の姿や生活を目の当たりにすることで就学への期待につなげている。また、就学後の教科カリキュラムとの段差の解消に向けた接続カリキュラムを作成し、スムーズに就学に繋いでいけるよう取り組んでいる。
	(2) 参観や保育・授業等に参加するなどして、小学校等の教育を理解しているか。	○				
	(3) 日常的に情報を交換し、それを交流活動に生かしているか。	○				
家庭・地域社会との連携	(1) 保護者以外も対象にした参観日等を設置しているか。	○				保護者向けに親子登園や保育参観を通し、教育・保育の理解と園の取り組みへの理解が図ることができるようにした。保護者以外を対象にした敬老ふれあい会では、お年寄りが保育に参加し、交流を図ることができた。 保護者以外の地域の子育て家庭には園見学を通して、教育・保育の内容等を知る機会を設けた。また、高齢者施設、警察、地域のスパー、教育機関など地域の社会資源と連携し、車いす体験や高齢者との交流、買い物体験、地域のセレモニーへの参加を行った。これらを通し、地域社会とのつながりを感じる良い経験の機会となった。
	(2) 保護者を含む地域の人材活用の時期・内容は適切か。	○				
	(3) こどもの興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流しているか。		○			
	(4) 地域の行事に参加し、地域の文化や生活に触れているか。		○			
子育て支援の推進	(1) 地域の子育て支援として、園庭や保育室等を開放しているか。	○				施設開放は、月1回WEBページから予約制で行い、定期的な懇談の実施や保護者からの子育て相談には必要に応じ随時対応した。また週に一度ほっとカフェを開催し、家庭・子ども・地域社会を繋ぎ、保護者の孤立防止と養育力の向上に努めた。令和7年度から西区社会福祉協議会の協力により、子育て支援サークル「こうめ」の主任児童委員と連携して地域子育て支援活動を行い、子育て情報の発信や子ども園に対する理解を図ることができた。 保健福祉センター、児童発達支援センター等の専門機関とも連絡をとり合いながら子どもの育ちを共有し、必要な情報を保護者に提供することができた。
	(2) 「子育てについて」など、保護者を対象とした情報提供の機会を設定しているか。	○				
	(3) 職員による育児に係る「子育て相談」は充実しているか。	○				
	(4) 医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか。	○				
情報の発信	(1) 保育支援システムやホームページSNSなどを活用して、施設の情報を積極的に発信しているか。	○				各クラスの活動についてキッズノートやドキュメンテーションを活用し、保護者に発信している。子どもの育ちや保育の内容を見える化することで保護者により伝わるよう工夫している。また、インスタグラム等SNSも活用し、保護者のみならず園の取り組みを広く発信することができた。
	(2) 行事や子育て支援事業等を、地域の連絡会や児童施設、小学校に対して周知しているか。		○			
外部評価	(1) 第三者評価を導入し施設運営に反映しているか。	○				第三者評価を受審し、その結果について大阪府や園のHPで広く周知した。年度末や行事後には保護者アンケートで意見や要望をもらい、その後の行事に反映させた。保護者の意見反映については、保育の質向上に繋がる意見はできる限り反映できるようにした。
	(2) 地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか。		○			

開かれた保育園づくり